東　輝

みどり市立大間々東中学校
学　校　通　信
令和５年１０月１６日　第１４号

学校評価の「自己評価」について

学校評価実施に伴うアンケートでは、お忙しい中、ご協力いただきましてありがとうございました。遅くなりましたが、今号では学校評価の結果について報告いたします。

学校評価は、学校の教育活動その他学校運営の状況について評価することにより、組織的・継続的な改善につなげることが目的の一つです。今回は中間評価として行いましたが、年度末に改めて年間を通しての自己評価を行うとともに、学校関係者評価（本校の学校関係者は学校評議員）を実施し、自己評価の妥当性等についても評価していただく予定です。

今回も中間評価であることや紙面の都合等から、結果の概要をお伝えする形といたしますが、低評価となっている項目だけでなく、相対的な数値の比較（１年前との比較）を通して見えてくるものからも策を検討し、改善を図るという視点を加味しました。

学校ばかりでなくご家庭や地域の皆様の協力が不可欠な内容もありますので、今後とも子どもたちの生きる力の育成に向け、ご理解・ご協力をお願いいたします。

＜表の見方＞

【最　上　段】　：　評価の対象となる内容
【■　　印】　：　評価の趣旨（どのような視点で評価しているかの概要）
【表右側の数値】　：　「評価の趣旨」と関連するアンケートの結果
（肯定的意見の合計〔単位：％〕）
【自己評価】　：　Ａ～Ｄの４段階評価ですが、原則として表中の【〇〇：〇％以上】の数値が達成されているかどうかを基準として評価を行っています。
※【　】内に示されている数値は「Ｂ」の達成基準です。また、項目ごとに基準が異なっています。
【最　下　段】　：　現状や学校としての今後の対応、ご家庭への協力依頼事項等

「保護者との連携」について	保護者	生徒	教職員	自己評価
	上段の数値：１年前 下段の数値：今回			（　）は1年前
■学校は、各種のたよりやホームページ、授業参観等を通じて、学校の教育活動の周知・理解推進に努めている。 【職員・保護者：８０％以上】	91.4 92.1		91.3 100	A
■学校は、連絡や相談がしやすい環境や対応を整えている。 【保護者：８０％以上】	90.0 91.5			A

■学校は、保護者への連絡が必要な事案が発生した際、対応を迅速かつ適切に行っている。【職員・保護者：９０％以上】	85.0 89.8		91.3 100	（C） B

これまで同様、学校では各種通信類を発行するとともに、必要な情報をタイムリーに発信できるよう心掛けていますが、情報過多とも言える時代において、どのような情報を優先的に発信すべきなのか、また、方法としてはどのような方法が妥当なのか、新たな視点を踏まえて改善を図っていきたいと思います。ホームページでは見られない情報も載っているポータルサイトについても繰り返し閲覧方法をご案内してきましたが、なかなか浸透していない現状があります。各種画像等だけでなく、ポータルサイトの方がより詳しい内容が閲覧できるものもたくさんありますので、ぜひそちらもご覧ください。また、タブレットのクラスルームの活用も増えましたので、併せてご活用ください。

なお、情報発信や保護者への連絡が必要な事案が発生した際の対応については、教職員の評価と保護者の評価の数値的な開きがありますので、特に安全に関わる内容などについては、更に迅速かつ適切な対応となるよう心掛けていきたいと思います。併せて、これまで同様、何か心配事などがありましたら、遠慮なく学校までご連絡いただければと思います。

「確かな学力」について	保護者	生徒	教職員	自己評価
■はじめに「めあて」をもち、終わりには「わかったこと」「できたこと」を振り返りながら、毎日の授業に取り組んでいる。【職員・生徒：８０％以上】		90.6 87.7	91.3 95.3	A
■自己の課題に応じて家庭学習に取り組み、自主勉強を毎日提出している。【生徒：８０％以上】		89.8 74.5		（B） C
■授業が「わかる」、出された課題が「できる」と感じる。【生徒：８０％以上】		89.4 85.4		B
■特別な配慮を要する生徒など、個別のニーズに応じた学習指導を実践している。【職員：８０％以上】			95.6 90.5	A
■タブレットが授業や家庭学習の充実、校務の効率化に向けて有効活用されている。【生徒・保護者・職員：８０％以上】	70.8 79.0	82.1 77.4	87.0 95.2	B
■ツールとしてのＩＣＴを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図った授業づくりをしている。【職員：８０％以上】			77.2 95.2	（C） A

「確かな学力」における最も重要な視点の一つは「個別最適な学び」であると考えております。また、予測困難と言われる時代を生きていくために、学びの在り方自体も大きな変革を求められています。上記の結果との関連では、自主学習に関する数値が大幅に低下していますが、「学び方自体を学ぶ」という視点をより一層重視する必要があります。また、探究的に課題解決を繰り返す「総合的な学習の時間」で取り組むべき学習も一層重要視されています。

併せて、時間の経過とともにＩＣＴなしに学習を進めるという選択肢はますます減っている状況があります。タブレットに関する項目についても、数値が大きく変動していますが、その生徒に合った効率的・効果的な学習が行えるよう、これからも活用方法を工夫していきたいと思います。

「豊かな心」について	保護者	生徒	教職員	自己評価
■気持ちのよい挨拶や返事ができる。 【生徒・職員・保護者：８０％以上】	81.5 80.1	95.3 94.8	82.6 76.2	B
■学校は、いじめ防止のために積極的に取り組んだり、いじめがあったときにはその解消に向けて真剣に取り組んだりしている。【生徒・保護者：９５％以上】	80.0 80.7	91.4 88.2		(C) D
■「自分にはよいところがある」「自分は人の役に立ちたい」と思っている。【生徒：８０％以上】		89.8 85.4		B
■学校いじめ防止基本方針に基づいたいじめ対策を行っている。【職員：９５％以上】			95.7 95.2	B

「豊かな心」に関する内容は数値化するのが難しい面があり、学校通信第１３号にも載せたように、目には見えづらい要素を多く含んでいます。したがって、本質的なことを履き違えないようにしながら地道な取組を継続する必要があると思います。また、いじめに関する自己評価をD評価としましたが、これからも厳しい基準や学校いじめ防止基本方針に則った対応を継続したいと思います。この項目の教職員の数値は１００％でなくてはなりませんので、校内研修等で引き続き意識の高揚を図っていきたいと思います。

また、いわゆる自己肯定感や貢献感と言われるものについても、主に特別活動の指導と関連付けた指導を行っていきたいと思います。

「健康・体力」について	保護者	生徒	教職員	自己評価
■毎日、適度な睡眠と食事をとっている。【生徒：９０％以上】		84.0 84.4		C
■健康診断後、治療勧告を受けた場合、受診させている。 【保護者：８０％以上】	79.3 76.7			(B) C
■部活動や自主的な運動など、体力向上につながる何らかの活動を行っている。【生徒：８０％以上】		86.5 82.1		B

これまでもお伝えしてきたとおり、健康・体力は生活や学習の基盤となるものであるため、たいへん重要な項目だと捉えています。特に、義務教育段階において基本的な生活習慣を身に付けたり、病気予防の意識を高めたりすることは、その後の心身ともに健康な生活を送るための礎となるものです。学校では、栄養教諭や養護教諭が連携した食育の指導を行うとともに、保健体育科等における指導の充実に努めますが、ご家庭でも基本的な生活習慣の定着を意識した声掛けなどをお願いいたします。

また、これまでも運動を積極的に行うことの効果について発信してきましたが、２年前は昼休みの校庭に誰の姿も見られませんでしたが、現在は、常に校庭で運動する生徒の姿が見られます。コロナが５類になったこととも関連しますが「健康・体力」については、長期的な視点も忘れないようにした取組を継続したいと思います。

保護者の皆様におかれましては、治療勧告を受けた場合の受診についても、ご配慮をお願いいたします。

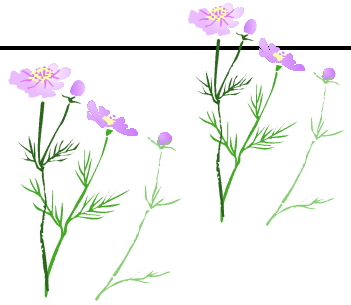
「安全確保・施設設備」について	保護者	生徒	教職員	自己評価
■学校は、安全で落ち着いた雰囲気の中で学習できるよう教育環境を整えている。　【生徒・職員・保護者：９０％以上】	90.7 90.3	90.7 86.3	91.3 95.2	B
■学校は、交通事故、地震・火災・不審者など、様々な危険から身を守るための指導に積極的に取り組んでいる。【生徒：８５％以上】		95.7 91.5		(A) B
■学校は、感染症等の対策に適切に取り組んでいる。【生徒・保護者・職員：８５％以上】	90.7 92.1	94.6 84.9	95.6 80.9	B

安全に関することは、生徒たちが学校生活を送る基盤となる重要な要素です。したがって、計画に沿って日常的な安全点検や避難訓練などを行うのはもちろんですが、生徒の意識が低くならないよう、折に触れて啓発していきたいと思います。

また、感染症の対策に関する数値が１年前と比較して大きく下がっていますが、これは新型コロナウイルス感染症が５類に移行したこととの関連で下がったのではないかと思われます。しかし、その後も各種感染症の流行は続いていますので、学校行事や受験などにも影響が出ないよう、注意深く対応を継続したいと思います。インフルエンザの免疫力が下がっているといった報道もありますが、各ご家庭におかれましても引き続き感染症対策をお願いいたします。

「進路・生き方」について	保護者	生徒	教職員	自己評価
■全教育活動を通して、社会的・職業的自立に向けたキャリア教育に取り組んでいる。　【職員：８５％以上】			87.0 95.0	B
■総合的な学習の時間やキャリア学習を通して、将来の生き方について、考えるようになった。　【生徒：８０％以上】		87.1 84.0		B
■自己有用感、自己肯定感をもっている。【生徒：８０％以上】		86.3 83.5		B
■中学校卒業後の進路を考え、毎日の授業や部活動等に一生懸命取り組んでいる。　【生徒・保護者：８０％以上】	79.3 81.2	93.0 86.8		B
■学校生活に満足している。※新規質問【生徒：８０％以上】			84.0	B

昨年度から「学校経営グランドデザイン」に示している内容の中核として、「キャリア教育」を据えています。全校集会の際なども、長期的な視点を踏まえた話をするよう心掛けていますが、９年間の小中学校の生活を終えれば、公的な教育は義務ではなくなり、それぞれの家庭や個人がどのように生きていくか考え、行動し、道を切り拓いていくことになります。

ある意味では生涯を貫く課題とも言えますが、「中学校卒業後の進路を考え、毎日の授業や部活動等に一生懸命取り組んでいる」と肯定的に答える生徒の割合が１年前と比較して６．２％下がっています。学校としては、進学指導も重視しながら、「キャリア教育」の視点も踏まえた系統的な指導が行えるようにしていきたいと思います。

１１月には三者面談も予定されていますが、意義深い時間となるようご協力をお願いいたします。